

第9回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：平成30年7月24日（火）午後2時～
- 2 場所：小田原市役所 601会議室
- 3 出席者：前田委員長、有賀副委員長、原田委員、益田委員、加藤委員、戸田委員、山田委員、大森委員、菴原委員、杉崎委員

事務局：府川課長、村田副課長、岡崎主査、樽木主事

4 資料：

- ・次第
- ・資料1-1 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会アンケート結果
- ・資料1-2 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会 改善案
- ・資料2-1 小田原市市民提案型協働事業（平成31年度実施新規事業）申請一覧
- ・資料2-2 小田原市行政提案型協働事業応募の手引き（平成31年度実施分）
- ・資料2-3 市民提案型協働事業第一次審査実施要領（案）
- ・資料2-4 市民提案型協働事業第一次審査採点表（案）
- ・資料2-5 市民提案型協働事業第二次審査及び行政提案型協働事業審査実施要領（案）
- ・資料2-6 市民提案型協働事業第二次審査及び行政提案型協働事業審査採点表（案）
- ・資料3-1 おだわら市民交流センターUMECO運営評価の流れ（案）
- ・資料3-2 運営評価に係る意見の反映について
- ・資料3-3 平成29年度おだわら市民交流センターUMECO実施事業報告（記載例）
- ・資料3-4 おだわら市民交流センター指定管理者自己評価表（平成29年度分）（記載例）
- ・資料3-5 おだわら市民交流センターUMECO 第三者評価シート（案）
- ・資料3-6 第三者評価に係る意見集約シート
- ・資料3-7 平成29年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価（様式案）

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

委員長：それでは、議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について、説明をお願いしたい。

（事務局 資料1-1、1-2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：質疑応答について、委員が司会をするというのは、各ブースに委員が3、4人いると思うが、その中の1人が司会をして、残りの委員は質問して良いのか。

事務局：そのとおりである。各ブースの委員のうち1人に司会を行っていただき、状況に応じバランスよく、他の委員を含め様々な方が質問できるよう配慮していただきたい。

委員長：今回は質疑応答開始時に、誰が委員か分かるよう委員が挙手していたが、最初から司会を決めておくのが良いだろう。

事務局：なるべく偏らないよう調整したい。なお、司会者が質問してはいけないということではなく、例えば先に質問したい人の数を把握して、時間内に収まるように配分してもらおうとか、誰かに偏り過ぎないようにすれば、司会者も質問しても良いと考える。

委員長：実際には、質問者が多すぎて司会者が質問できないということもあり得る。手短かにしていただくよう司会から依頼したり、回答についても制限時間を設けるなど必要かもしれない。次回の報告会までに詳細な対応を検討したい。

今回のアンケート結果で喜ばしいのが、委員と発表者以外の来場者が31人もいたことだ。これには発表者以外の、団体に属している方も含まれるのか。

事務局：団体の会員や、UMECOの職員など、委員と発表者以外を全て含んでの数字である。市民活動に興味がある一般の方もいらっしまった。

委員長：市役所の大会議室で実施していたときと比べると、一般の方は増えたのか。

事務局：正確な数字は把握していないが、一般の方の参加はほとんど無かったと記憶している。

委員長：少なくとも、アンケートの結果では回答者の半分は委員や発表者以外の来場者となっている。UMECOで実施した意味があったという分析ができる。

事務局：ワールドカフェ方式についてはいかがか。

委員長：参加者に、強制的に交流をさせられているような印象を持たれるかもしれない。

事務局：テーブルをあらかじめ指定し、時間がきたらメンバーを入れ替える、ということを3回ほど繰り返すものだが、交流がしやすくなると考えている。

委員：同じ団体から複数人参加している場合は、それぞれテーブルを分けるのか。

事務局：テーブルの組み合わせなど、詳細な方法については、今後ご意見を伺いたい。自由に話す形式の場合、交流している人とそうでない人に別れてしまったり、特定の相手とだけ話をしたりするケースが見受けられたので、そういうことがないように、一定時間で入れ替えできるようにしたい。

現在は立ちながらの交流会であり、うまくテーブルに配置できていないが、席を決めることにより、交流がより図られると考えている。さらに、座ったままずっと同じメンバーで話すのではなく、ある程度回転させた方が多くの人と交流できるのではないかと考える。

委員長：委員も、着席した状態でテーブルに入るといことだと思うが、円滑に交流できるかは予想できないところである。全体の交流時間はどれぐらいか。

事務局：今年度は50分であった。

委員長：前半はワールドカフェ方式、後半は自由な交流としてもいいだろう。

委員：委員が司会をし、そのテーブルをまとめる必要があるのか。

事務局：テーマを決めて話し合うものではなく、話しやすいように集まっていただくだけである。誰も知り合いがいないと、なかなか席に近寄れない。しかし、最初から座っていれば、同じ席にいる人と話すしかない状況になり、交流しやすくなるという考えである。興味のある内容で話していただければよいので、司会も必要ないと考えている。

テーブルには発表者もいるし、資料も手元にあるはずなので、質問できなかったこと、より詳細に聞きたいことなど、自由に交流していただけると考える。

委員：当日参加の方も同席するのか。

事務局：そのとおりである。

委員：一般の来場者も含めた席の割り振りを、当日その場で考えなければならない。

事務局：詳細については今後検討する必要があるが、本日は、まずは方針としてよろしいかお諮りしたい。

委員：そこまでして交流してもらいたいのか、疑問はある。強制されている印象を受けてしまうのではないか。交流会の目的が具体的に示されないために、今回のように仲のいい人だけで固まってしまうことが課題と考えている。

ワールドカフェ方式は、積極的に交流したい人だけが集まっていれば非常に有効だと思うが、実際には所属する団体の応援に来ただけの方も多いのではないか。そういった人たちも交流できるならよいが、かえって負担に思われてしまう恐れがある。

委員：テーブルの数はどうなるのか。

事務局：今年は3つに分けていたが、次回は10個に分けたいと考えている。

委員：少人数の方が話しやすいとは思いますが、15分毎にテーブルが変わるとというのが適切か、疑問がある。

事務局：当初、報告会では一部の団体のみ事業報告を行っていたが、その他の団体にもPRの時間を設けてみたところ、来場者が増加した。その後、来場者が関心のある分野の報告を聞けるよう、発表者のグループ分けをすることとなったため、現在のように懇親会のような形式での交流会を実施している。

こうした経緯に鑑みると、来場者は情報発信したいと思っている人が多いと考えている。

委員：前半だけテーブルを決め、後半は自由にすれば良いと思う。

事務局：ワールドカフェ方式で、自由に交流するよりも自分たちの団体のPRができた方がいいかもしれない。

けやきで実施していた時は、一人ずつ並び、持ち時間の中でPRをしていた。ちらしはあらかじめテーブルに置いておき、PR後は自由に交流していただく時間を設けていた。市

民活動応援補助金を交付した以外の団体の参加もあった。交流会の趣旨は今でも変わっていない。

委員 長：テーブルを分野ごとに分けて団体の位置を指定し、来場者は自由に移動して交流するのもいいだろう。

事務局：今回もなるべく同じ分野が集まるようにしていたが、立っているせいか集まっていなかったり、同じ団体同士で話したりしていた。着席した方が交流できると考えている。

委員 長：各テーブルの団体の配置は、どのように周知していたか。

事務局：机に団体名を表示していたほか、ホワイトボードに貼り出していた。

委員 長：団体の配置は、分かりやすいよう工夫する必要がある。

委員：団体に名札を付けてもらうということだが、委員にもあったほうが良い。

委員 長：文字だけだと見えづらいので、発表者と委員で色分けすると良いと思う。また、紙で三角柱を作り、側面に団体名を書くようにすれば、テーブルに置いたり、移動するときには持っていくことができる。

基本的には事務局の改善案のとおりとするが、着席しての交流は参加しづらく帰ってしまう人が増える懸念があることから、ワールドカフェ方式については継続審議としたい。

■ 議題（２）提案型協働事業について

委員 長：それでは次に、議題（２）提案型協働事業について、説明をお願いしたい。
（事務局 資料２－１～２－６に基づいて説明）

委員 長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

行政提案型協働事業の、行政側の事業テーマ募集はいつまでであったか。

事務局：事業テーマの募集は６月１５日までであった。

委員 長：複数の行政提案型協働事業を実施した年度もあったか。

事務局：平成２３、２４、２８、２９年度は複数の事業の実施に至っている。

委員：行政提案型協働事業は書類審査がなく、最初からプレゼンテーション審査を行うということではよろしいか。

事務局：そのとおりである。

委員 長：行政提案型協働事業は、行政においてあらかじめ事業テーマを決定しているため、市民提案型協働事業よりも審査回数が少ない。

委員：市民提案型協働事業に申請した新規の３団体は、事務局から特に案内を行ったのか。

事務局：特には行っていない。

委員 長：３団体は、市民活動応援補助金の交付実績はあるか。

事務局：めだかサポーターの会には、平成２６年度にスタートアップコース、平成２７、２９、３０年度にステップアップコースで市民活動応援補助金を交付している。他の２団体は設立から１年未満であり、交付実績はない。

委員 長：それでは、事務局案のとおり実施することとする。

■ 議題（３）①運営評価について

委員 長：それでは、議題（３）①運営評価について、説明をお願いしたい。
（事務局 資料３－１～３－７に基づいて説明）

委員 長：ただいま説明があったが、まずは資料３－１の流れでよいか。

平成３０年度のUMECO事業については、平成３１年５月に試行的に評価を実施する。平成３１年４月からは新しい指定管理期間となるが、その平成３１年度の事業から、正式に第三者評価を本委員会において実施することになる。

他市事例では、夏ごろに第三者評価を実施しているところも見受けられる。指定管理者からの報告を５月と想定しているが、対応は可能か。

事務局：今回新たな書式を検討していることから、今までと異なる部分はあるが、これまでも５月に事業報告をお願いしていたので、可能と考えている。

５月に提出いただく書類に関しては、資料３－３にあるような事業報告書であるので、月々の報告をその都度集約しておくことで、十分対応可能なスケジュールであると想定し

- ている。決算をまとめるなど、年度が明けてからでないと作業できないものではない。
- 委員：5月中旬に前年度の事業報告があり、6月末に評価結果を送付することになっているが、UMECO自体は単年度ごとに事業計画を立てている。予算を組む必要もあり、年度途中からの大きな事業変更は難しいだろう。評価結果の反映方法はどのようにするのか。可能な限り意見を事業に反映していただきたい。
- 事務局：これまでも5月に事業報告、6月に中間報告、10月に翌年度の事業計画の報告を受けていただき、その都度意見交換を行い、UMECO事業の参考としていただいていた。運営評価を委員会で実施していただくことにより、UMECOの報告を受けた委員会からの意見も視点が変わる可能性もあり、UMECOの事業計画の見直しにもつながると考えている。
- UMECOからの報告書は資料3-3のイメージである。この報告に対し委員会から様々な意見を出していただくことになるが、個別の事業に関する意見であれば、例えば7月以降に実施する大部分の事業への反映は間に合うことになり、早期改善につながると考えられる。
- 委員長：ある年度の評価を、翌年度の事業に全て反映させることは、仕組上不可能である。当年度の評価が終わってから翌年度の予算を組むことはできない。時期的に反映可能なものみの対応となる。少なくとも、さらに翌年度の事業には全面的に反映させることができる。
- 委員：評価結果を送付し次第、事業に反映できるものは順次反映していただくということで了解した。
- 委員長：それでは、資料3-1の流れで運営評価を行うこととする。書式はこの後協議するが、5月の評価実施に間に合うよう決定する必要がある。
- 続いて、資料3-2から3-5についてはいかがか。実際の評価実施時は、委員の皆様には資料3-5に記入いただくことになる。
- 資料3-3と3-4の上部に評価点の説明がある。「2改善した方が良い」と「1改善が必要である」は、改善の必要度に差があるということだと思うが、この文言で分かりやすいか。同様に、「4やや優れている」という表現も適当であるか。
- ある大学の授業で学生の成績を付ける場合は、良い評価から順に「S」「A」「B」「C」となる。試験の点数でどの評価になるか決まっており、アルファベットに日本語の表現は付していない。
- 委員：目標値に対する達成率によって自動的に評価が決まるようにすれば、主観が入る余地がないのではないか。資料3-3における、事業単位の評価であれば、達成率から自動的に評価できるようだ。
- 事務局：事業単位での評価に関しては、達成率による定数的な評価が主となるが、コンセプトの達成状況についての評価となると、数値目標を立てるのが難しく、自動的に評価するだけの根拠が得られない。
- 機能とコンセプトの達成状況については、達成率から評価することは難しい。例えば、機能の評価であれば、「この機能を担う事業が足りない」というような評価も必要と考える。
- 委員：資料3-3と3-5で評価点の算出方法が変わることか。
- 委員長：そうすると、資料3-3から3-5で、評価点の説明を同一とすべきではない。資料3-3では達成率から自動的に評価し、資料3-4と3-5では評価の文言を変えることも考えられる。
- 委員：資料3-4の自己評価まで踏まえて、資料3-5では数値以外の要素を加味し、委員が評価を行う、ということなので、各様式の評価点の内容は同じでない方が良い。
- 委員長：資料3-3は評価点ではなく、達成率に関する表現の方が良い。
- 事務局：行政の事務事業評価のように、例えば達成率80%で「A」とするのが良いか。
- なお、本日の資料3-3は記載例であるので、一部の事業しか記載していないが、実際には28の事業が列記される。個別の事業の評価を踏まえ、資料3-4で機能とコンセプトの達成状況について自己評価を行い、それらを踏まえて資料3-5では委員の皆様が機能とコンセプトの達成状況について評価する。個別の事業の評価は、第三者評価の前提となる情報であると考え、資料3-3を作成している。

- 委員長：個別事業の評価に際し、数値化できない要素もあるか。
- 事務局：事業によっては、成果を数値化しづらいものもある。本日、各様式についてご協議いただいているが、その部分については積み残しの課題となると思われる。実際に評価を試行してみてもの検討としたい。
- 委員長：資料3-3には「成果」「課題・対応」欄があるので、数値化しづらい部分はそこに記載する対応になるだろう。例えば、事業の当日、台風で参加者数が激減した場合などがこれに当たる。もし特別な事情で参加者数が少なくても、満足度が高ければ、評価点に反映させるべきであるし、反映させるための材料であるアンケートなど、客観的な指標を用意する必要がある。こうした満足度調査は、資料3-4の総体的な評価にも利用できる。
- 事務局：資料3-3と3-4は指定管理者で作成する様式であるので、評価点の説明は「目標を十分達成できた」などとすれば、特別な事情を加味しての評価とできるのではないか。あるいは、資料3-3には「成果」「課題・対応」欄があるので、あえて評価点は付けず、達成率のみとするのはどうか。
- 委員長：資料3-3には、評価点を付けなくても良いかもしれない。
記載例では指標は参加者数などのアウトプットに限られているが、満足度調査などによるアウトカムを全事業において記載するとすると、指定管理者には相当な負担となる。資料3-3はアウトプットに係る達成率と「成果」「課題・対応」のみとし、資料3-4は数値化しづらい部分も踏まえて自己評価を行うこととしてはどうか。個別の事業の評価よりも、総体として機能、コンセプトが達成できているかを評価することが重要である。なお、この場合、資料3-4は評価点の根拠をできるだけ詳しく書いていただく必要がある。
- 委員：資料3-5の評価シートを書くときに、参考にするものは資料3-3、3-4と指定管理者の発言だけなのか。
- 事務局：第7回会議資料のような、アンケート結果や各事業の詳細な内容を必要に応じまとめたものを、参考資料としてお示しする。
- 委員：先ほどの議題で、活動を視察したほうが良いというアンケートの意見があったと思うが、UMECO事業に関しても、机上の評価で終わらせないため、少人数でも視察するなどしたほうが良いと感じる。
- 委員長：UMECO祭りには毎年伺っているが、皆さん非常に頑張っていると感じる。
視察する場合は、評価に私情が入らないよう特に注意しなければならない。
- 委員：UMECO祭りに関しては、当日も大変だが、準備にも相当力が入っている。出展予定の団体は、事前の会議への出席が必須である。
- 委員：本当に効果のある事業だったか評価するためには、それを利用する人が参加して良かったと感じたかどうかを把握する必要がある。満足度に関して何かしらの記載をしたり、アンケートをとったものはその結果を分かるようにした方が良いと考える。
- 委員長：一番良いのは、28事業全てでアンケートをとることだが、それは可能なのか。
- 委員：簡易的に、参加者に、満足度ごとに色分けした札を箱に入れていただく、という方法も考えられる。
- 事務局：全ての事業ということだと、事業の性質上アンケートをとれないものもあるので難しい。
指定管理者との調整が必要だが、年に1度、団体登録を更新する手続きがあるので、その時に「UMECOを利用してどうだったか」など、全体を総括した簡易的なアンケート調査を行うことは有効と考えている。
- 委員長：サポートセンターの時は、団体登録は更新制ではなかった。
- 事務局：サポートセンターにおいて、登録してあっても活動していない団体が多かったことなどを踏まえ、UMECO開設にあたってワークショップ等で施設利用者に話し合ってもらい、登録期間を1年間とする更新制を導入した。更新に際しては、各団体の状況を把握したいことから、UMECOの窓口に来ていただくようお願いしている。
- 委員長：そういうことで、団体の負担にならない程度のアンケートであれば、実施することは不可能ではないだろう。
- 事務局：400を超える登録団体のうち、28の事業に直接関わる団体が一部に限られており、一律にアンケート調査を実施しても適切な事業評価に結びつかない恐れがあるので、質問の

設定方法や結果の捉え方においても課題がある。

事業に関わりたいと思っている団体もあれば、活動エリアが使えればよいと思っているところもある。団体の状況に応じた満足度を把握できるアンケートにする必要がある。

委員長：アンケートの冒頭で、UMECOの利用頻度、事業への参加状況を質問する方法もある。利用頻度の高い団体の意見を重視する方が良いかもしれない。

事務局：アンケートを年一回の更新時にとるか、事業実施時にとるか、どちらが良いかは検討が必要である。登録期間が7月から翌年6月であることから、更新手続きは4月から始めており、5月の事業報告には間に合わない。後日の参考送付となる。

委員長：なぜ、登録期間が7月からなのか。

事務局：事業計画書や事業報告書を提出書類としていることから、4、5月の総会後になるよう、書類の作成期間も考慮して設定している。

委員：UMECOの実施事業が、機能やコンセプトの達成に必要なかを判断するためには、簡易的なものでもいいので、参加者に対して満足度調査を実施していただきたい。

委員長：登録団体に対するアンケート調査は、事業に参加していない団体も相当数あるため、事業に生かせるのは一部だけであろう。

事務局：6つの機能の中で代表的な事業、例えば各機能1事業ずつに絞ってアンケート調査を実施するのはどうか。

委員長：第一段階としてはそのぐらいが良いだろう。

第三者評価については、次期指定候補者の選定の際には、募集要項などに明記するのか。

事務局：募集要項には記載していないが、来月実施する現地説明会においては、第三者評価に係る説明が必要と考えている。

委員長：それでは、各機能の評価にあたりポイントとなる事業を選び、満足度調査を実施していただくこととしたい。

資料3-3の評価点については削除するが、達成率だけで評価できない部分については「成果」「課題・対応」欄に客観的に記載することとする。

資料3-4については、資料3-3やその他の参考資料をもとに、機能ごと、コンセプトごとの達成状況を自己評価し、できるだけ詳細にその評価点の理由を記載することとする。資料3-4の評価点の文言については、どのようにするか。

委員：達成状況を評価する様式であるので、優れているとか改善が必要であるということではなく、達成しているかどうかを記載する方法も考えられる。

事務局：単純に、5段階評価で「高い」が5点、「低い」が1点とだけ表記するのはどうか。

委員長：5点が達成度「高い」、1点が達成度「低い」とするのが分かりやすいと思われるので、そのような形で一度様式を作成することとする。

続いて、資料3-5はどうか。これが、委員において記載する様式である。

委員：第7回会議時の案では、コンセプトの「その他」欄に「土台づくり」という項目があったが、今回の様式ではなくなっている。「土台づくり」は評価しないということか。

事務局：今回の案では、「土台づくり」は全てのコンセプトの前提であることから「共通」とし、単独での評価は不要としている。

委員長：「共通」の右側に記載欄がないのは、どのように説明するのか。

事務局：資料3-5で個別の事業名を記載しているのは、コンセプトの達成状況を評価するにあたって、各事業が主にどのコンセプトに対応したものかを整理するためである。「共通」にある3つの事業は、全てのコンセプトに対応するものであることを表しており、評価にあたっては事業ごとではなく、コンセプトごとの評価を行うものである。

委員長：本資料も公開することになると思うが、一般の方がそのことを分かるか疑問である。

事務局：評価の時点では各事業がどのコンセプトに対応しているかを補足説明することとするが、一般の方も分かりやすいよう、コンセプトの評価様式からは「機能」から「事業」を削除したい。

委員長：それでは、コンセプトの評価の公開様式としては、事業名や「共通」の部分は削除することとする。

委員：2つ目のコンセプトの視点に「地域の課題をとらえているか」とあるが、これは3つ目の

コンセプトの視点とすべきではないか。

事務局：「地域の課題をとらえている」だけでは、3つ目のコンセプトには達していないという趣旨であった。

委員長：視点も、コンセプトごとに明確に区分できるものではない。地域の課題を解決するには、第一段階として、どういった課題があるのか把握する必要があることから、3つ目のコンセプトの一番初期の段階とする。

委員：6つの機能は、どれも同じぐらい重要ということによいのか。また、コンセプトについては、1つ目から3つ目に発展すべきものという認識でよいのか。

事務局：6つの機能は、どれも対等のものと考えている。コンセプトについては、地域の課題を解決すること、社会貢献活動につなげることを最上位の目標とすべきであり、そこに向けてUMECOの事業を発展させていくべきと考えている。

委員長：資料3-5の様式についても、5点が達成度「高い」、1点が達成度「低い」とする。また、本資料については、事業名がないものを正式な様式とするが、評価実施時にはコンセプトごとに対応する事業名が分かるよう、補足説明を付すこととする。

事務局：今後、資料3-5に記載いただいた内容は、資料3-6のような形で公開されることになるが、問題ないかお諮りしたい。

委員長：ただいま事務局から、資料3-5の各委員の記載内容等を公開することについて確認があったが、問題ないものとしてよろしいか。

(異議なし)

委員長：続いて、資料3-6、3-7について協議したい。資料3-7が、最終的な第三者評価として指定管理者に送付する様式である。評価結果をすぐに事業に反映することは時期的に難しいかもしれないが、改善できるものから段階的に反映し、徐々に点数が上がっていくよう期待する。

事務局：単年度の評価よりも、複数年にわたる数値の向上に意味があると思われる。

今回の仮評価についても、現指定管理者に参考として送付してよろしいか。

委員長：あくまでも仮評価ではあるが、問題ないと考える。委員の皆様もそれでよろしいか。

(異議なし)

事務局：資料3-7の様式で、「各委員の評価点の平均点」の中に、6つの機能の平均点を記載する箇所がある。年度ごとの評価を総括した点数があれば年度比較に有用と思われるが、コンセプトは3つそれぞれレベルが異なるため、6つの機能の平均点を算出した。適切かどうかご意見をいただきたい。

委員長：6つの機能の平均点を出すよりも、全ての項目を合計した点数が100点満点になるように調整する方が、年度比較の上では意味のある数値となると思うが、この時点で検討するには時間がない。まとめのところで、機能とコンセプト、それぞれの平均点を記載する方法も考えられる。機能とコンセプトは視点が異なるので、合わせた平均点は適切ではない。

事務局：コンセプトは、3つ目の達成に向けて発展させていくべきものなので、平均点を出すことには疑問がある。

委員長：それでは資料3-7について、現時点では平均点を記載しないことで統一することとし、年度比較のためのより良い記載方法については継続審議とする。また、評価点の説明についても、資料3-5と合わせて修正することとする。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

(事務局 今後の会議日程の確認及び調整)

※今後の会議日程及び場所は次のとおりとする。

部会

市民提案型協働事業第一次審査・・・ 8月 6日(月) 午前10時から 市役所

市民提案型協働事業第二次審査及び行政提案型協働事業審査

・・・10月 4日(木) 午前中 市役所

第10回委員会

・・・10月18日(木) 午前9時30分から 市役所

第11回委員会 …… 11月22日(木) 午前9時30分から 市役所
第14回委員会(市民活動応援補助金公開プレゼンテーション審査)
…… 3月10日(日) 終日 市役所

■ 閉会